



川崎・多摩丘陵の里山を守る会

熊野森トラスト

2003年春夏号
事務局 伊中
In&Fax 044-866-7005

四月六日

江戸見桜・花見の会

の空気とヴァイオリンを堪能した時間でした。この Peace of Mind は、おとし、夜桜の会の時、江戸見桜の元で演奏してくれたメンバーです。あの時から風景はずいぶん変わってしまったけれど、ターザンの木、江戸見桜、たぬきはまだ健在です。

今年の花はいつごろになるかしら 日々、桜前線、気象予報をにらみながら、当日を迎えました。当日、江戸見桜のつぼみはまだ硬かったものの、提供公園 熊の森緑地から望む彼方には、桜色の濃淡、萌える若緑がともきれいで陽光明るい朝でした。

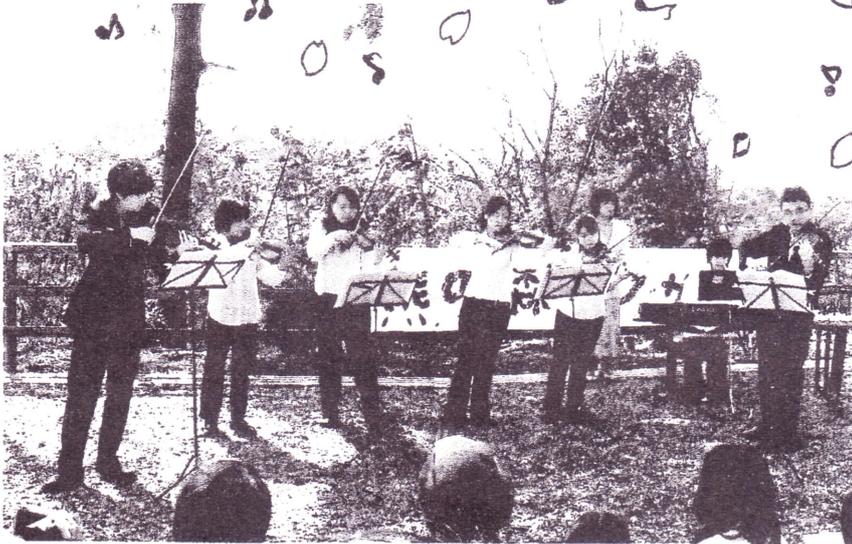
そのあと、この斜面にくぬぎ、こならのかわいい苗を希望者で植えました。宮前健康の森でわけてもらった苗で、きれいな雑木林が再生しますように見守っていきたいと思います。

富士ガーデンのコンテナトラックが到着し、花、苗木を並べ、フリーマーケットの店ができました。ご近所から、遠方からのお客様で用意した椅子テーブルは満席、山菜御飯、お茶、お団子は売り切れとなりました。

午後は、熊の森緑地で野外コンサート。窪



田 Music Academy の子供たちによるハンドベルとヴァイオリン。
Peace of Mind のヴァイオリン演奏です。陽春



春風の中、ハンドベルとヴァイオリンのコンサート、沢山の方に来て頂き、とても素敵な一時を過ごすことが出来ました。クラシックのコンサートというと、コンサートホールで夕方からというのが一般的なので、自然の中、春の日差しを浴びながらというのは、とても新鮮でした。僕たち peace of mind のメンバーの多くが、この春大学生になったばかりなので、桜の季節に演奏会ができたのは、又格別なものでした。小さな子供たちのハンドベルとヴァイオリンの演奏は、可愛くて思わず顔がほころんでしまいましたし、自分たちの小さい頃を思い出したりもしました。この企画をしてくださった「里山を守る会」の方々に大変感謝しています。ともすると、便利さを優先させて、開発を急ぐ世の中ですが、昔からの自然を今にとどめる場所を確保する事も大事だと思い、少しでも力になればと言う事で参加させて頂きました。

Peace of Mind 高井敏弘



都市マスタープランに思う

1992年、都市計画法改正で住民に最も近い市町村が、都市計画を策定することになった。川崎市では、都市計画は都市計画マスタープランに則して定めることになっている。都市計画マスタープランでは、基本的方針に市民の意見を反映させて定めることと、およそ20年後の川崎像を描き、地域の課題を解決するためのルールや、整備の方法を決めるための方針を示すことができる。川崎市では、各区で都市計画マスタープランづくりの市民提案づくりが進められている。

川崎市の現状をみると、無秩序な業者による開発が目にあまる。いろいろな建て方をしたり、住宅地にも関わらず、日照被害や工事被害をもたらす近隣のことも考えないやり方をどこかで食い止めないと、トラブルが増え良好な地域コミュニティの形成は遠のくばかりである。

斜面地でのマンション開発は、いろいろな問題を引き起こす。低

層住居専用地域にも関わらず、住環境を壊す高層マンションが建ってしまう。周辺のインフラ整備に合わない巨大マンションができた

りする。唯一残ってきた斜面緑地の破壊は、都市の潤いを無くするとともに、美しい都市景観、風格を無くしていく。緑の減少は、アスファルト、コンクリートの増加を意味し、交通量の増加をもたらす。このことは、静かな環境を壊し、地域でヒートアイランドの被害が出るようになったり、都市集中豪雨に悩まされることになる。

粗悪な開発をした場所を捨てて新しい建物を次から次へと建てるような開発・政策を容認している

と、少子・高齢化が進む中で、あと10年もすると、廃墟や空家が增えたり、環境が悪化し、治安が悪くなってくる地域が出てくると考えられる。

まちなみを美しくしていく方法は、地区協定、建築協定等のまちのルールづくりが有効である。緑の環境を守り、作っていくには、建物規模、建物の高さ、敷地の面積、緑地面積、位置等のルールをみんなで作っていくプロセスが重要となる。都市マスタープランの

策定過程は、各地でまちづくりに関わっている生活者、グループ、団体等と接触し話し合う良い機会となる。

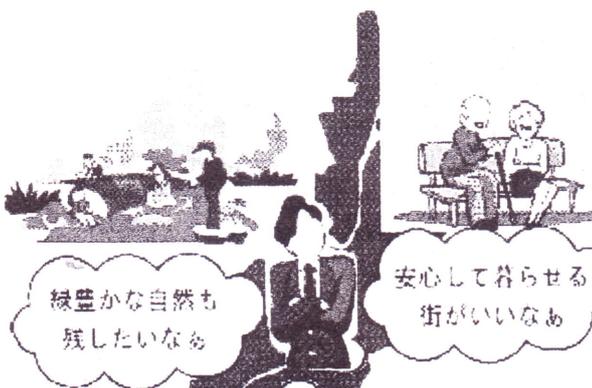
緑の保全は、地権者にとっても、家屋敷の風格を保つとともに、また、固定資産税、相続税等、税金面でも有益な背景が取られ始めて

が維持されていく必要がある。担当者が変わっても、市長が変わっても、必要なまちづくりが推進される必要がある。川崎市の各区の規模は、今話題になっている市町村合併規模からしたら、20万規模の中規模都市で、生活者中心の推進機関が必要な規模と考えられる。

行政、市民、企業のパートナーシップが叫ばれてから年数が経ったが、パートナーシップがなかなか進まないもどかしさを感じる。

身近な環境を良くしていくには、身近な推進者が重要な役割を担っていく必要がある。私たち生活者が、日々の活動を生かす政策を掲げて、都市計画マスターの策定におおいに関わることが重要になっている。

この間、市民提案は多く出されたが、パートナーである行政、業者の動きが明確にされていないのが現状である。市民提案をしつかり受け止める責任があると考えられるが、実行プロセスが明確にされていない。市民も、行政・企業にパートナーとしての役割を求める必要があるだろう。年数が経つと担当者が変わり、責任者、市長が変わりいつの間にか消えていく。時間が経たないうちに政策を実施する仕組みが必要で、地域に密着している区レベルで推進組織



(小海)

活発な緑地保存運動

今年も向ヶ丘遊園跡地の春の「ばら苑」が一般開放されましたが、私は特にその外側の生田の自然林が気に入っています。4月27日に生田緑地民家園駐車場裏から野鳥の森を通って、今一番ホットな住民運動「生田緑地・どんぐり山を守る会」代表 酒井行夫氏☎04-931-32801によって守られているどんぐり山の現場を見て、「ばら苑」裏側の自然林で森林浴。途中でばったり会った「向ヶ丘遊園の緑を守り、市民いこいの場を求める会」の松岡嘉代子さんのご推奨の、東生田2丁目の真ん中を下って、尾根づたいに散策するコースを取ることにしました。野鳥の森と「ばら苑」の奥の東生田の自然林は規模も大きく、野鳥や野生の小動物なども沢山すんでいて、地域の住民の方々が必死で保存活動をしている理由がよくわかりました。東生田2丁目の尾根のふもとには、鶏を放し飼いにしている農家があったりして、ここは本当に里山らしいところだなと感じました。

東生田の自然林と、野鳥の森をつ

なく唯一の地点、どんぐり山の大切さを広く市民の多くの方に知ってもらい、また応援も頂いて、現在禿山になってしまっているどんぐり山を早く再生できたらいいなと思います。代表の酒井さんの夢は、将来道路「向ヶ丘遊園菅生線」で切断されているどんぐり山と野鳥の森を動物たちのためにもこせん橋でつなぐことだそうです。



どんぐり山 6月20日
楽しい植樹祭が行われました。

どんぐり山トラスト基金

誰もがどんぐり山の大切さがわかっていのに市の高慢ちきな姿勢に地主が反発、開発業者に売り渡してしまいました。開発業者との買収の話し合いも市は積極的でなく、ついに開発事業の許可申請を認めずしてしまいました。開発事業の看板が

出され、樹木が伐採され、驚いた近隣住民の必死の訴えで市は開発業者と再度の買収交渉を開始しました。最初の地主との交渉価格から二倍以上になってしまった金額にあきらめかけた市に対し最後の最後、近隣住民有志の方の決断で事実上一部住民負担案を開発業者に提案し、熱意に打たれた開発業者の了解が得られたことからどんぐり山が開発から守ることが出来ました。1500万円という大きな金額の借金という初めての待ったなしのトラスト基金ですがスタートから約半年で目標の半分の貴重な協力が寄せられていると聞いています。

(持田忠康)



3月15日、市の「健康の森」担当の方の口添えで、運営委員4人は、中原区「市民健康の森」に出かけ、そこで活動されている「育てる会」の皆さんと、しいたけ菌の植付け作業を体験してきました。

作業は先ず、適当な長さに切られたほだ木を、みんなが近くの民家に運ぶ事から始まりました。広い庭先

には、準備万端、台や道具が用意され、説明を受けました。

本作業は

- ① ほだ木に専用ドリルで直径1cm、深さ2cm程の穴を10cm間隔で45度位の角度毎に穴をあける。
- ② あけた穴にしいたけ菌を木槌で埋め込む。

途中、雨がポツポツと降り出してきましたが、菌には晴天よりは良いとの事でした。みんなの手も拍車がかかり、ドリルと木槌のトントーンというリズムカルな音が、ひとしきり賑やかに響き渡りました。

しいたけが顔を出すまで、一年半から二年かかるそうです。育て方は、日陰に乾燥しないように置いておく。天地返しも必要、手をかけ過ぎると失敗し、忘れてしまっていた人が、ある日気がつけば、生えていたといったお話も伺いました。

長く待ち遠しいですが、ドッサリ成ったしいたけを思い、どうしようか夢は広がりました。

今、購入して帰ったほだ木を各家で育てています。

この経験を我々の「里山を守る会」で生かし、今後楽しく実りある活動を進めて行きたいと考えています。





緑地保全のために



不況が続き、日々の生活にゆとりがなくなっても、私達は酸素を吸い二酸化炭素を出すという行為で生きています。そして、それを支えてくれるのが植物です。植物が身近にあれば、鳥の鳴き声や蝶々の姿を楽しめ、潤いのある生活ができます。緑の保全や緑との共生は、誰もが認めるものです。

では、なぜ都市の緑保全が難しいのでしょうか。それは、地権者と保全を願う人々とのズレの違いだと思います。

地権者は、利益を生まない斜面緑地などに高い宅地なみの税金を払い、不審火やゴミの不法投棄にまで注意をはらっているのに、私達は地権者に敬意を表すまえに、保全をして欲しいと言ってしまうがちです。これでは地権者に一方的に負担を強いる、おんぶに抱っここの図式です。

まず、地権者の皆さんに感謝を込めて心から挨拶したいと思っています。皆さんのお陰で緑を楽しんでいます。きれいな酸素を吸うことができ、

生きていられます。どうも有り難う。

そして、地権者にも不利にならない都市計画を模索します。緑地の有効利用を目玉にして、まちも活性するような開発。将来、深刻なマンシヨンの空洞化がおこらず、自然と調和したまち、人と人の交流も盛んなまち。それには、どんな都市計画がいいのでしょうか。

地権者の皆さん、一緒にテーブルについて語り合いませんか？

提案だけして言いっぱなしにするつもりはありません。私達は、ゴミを拾い樹木の手入れをし、喜んで無償で働きたいと思えます。



これからの活動予定

里山活動は、緑を育む活動

毎月第③土曜日午前中、草刈や清掃、草花、樹、苗の植栽を行なう。

5月17日に、明日葉の苗・桃色月見草・シロツメクサ・コスモス・ひまわりなどの苗を、植えました。

末長久保台公園と末長熊野森緑地などの草刈をした後に、思い思いの参加者による植え付けでした。これから毎月継続作業です。

6月1日 2003かわさき環境デー(等々力緑地) 参加。パネル展示。
6月15日(日) 高津区役所、区政推進課 「まちづくりフォーラム」高津区ビジョン委員会報告において、ターザンの木のパネル展示。

6月21日(土) 里山活動日、草刈、清掃。植栽(竹垣の手入れも含まれます) 9時、末長久保台公園集合
7、8月は里山活動を月に一回にして、見学・学習を取り入れます。

総会予定は、9月7日(日)午後1時半から3時まで。記念講演も予定しています。(高津市民館予定)

末長熊野森にある通称「ターザンの木」が危ない、伐られそうな状況です。署名運動を開始します。どうぞ、多くの署名によって、この森のシンボル、人々の記憶に眠るこの樹

が残されるように、ご協力いただきたいと思えます。

この樹は「スダジイ」、この椎の樹は、斜面に平行に枝を延ばし、実に楽しい壮大さを見せています。ほんとうに一度見たら忘れられない、広がり大きさのある樹です。

□現在、この土地は建設会社の所有となっております。

□この土地の人々はこの樹で遊び、また、子どもを遊ばせた思い出を持っていきます。町内会長さんも、お寺のご住職も、懐かしげに語ってくださいました。

□身近な自然は何にも代えがたい貴重なふるさとの財産です。次の時代に引き継ぎましょう。

会員募集
年会費(8月から翌7月まで)2000円の振込みを郵便局でお願いします。
口座番号 00270-1-53171
加入者名 多摩丘陵の里山を守る会

基金のお願い(積みたてます)
一口3000円以上、高校生以下1000円です。
口座番号 00280-2-53172
加入者名 久本山・熊野森ナショナルトラスト

事務局連絡先 伊中 悦子
TEL&FAX 044-866-7005